

を運営する立場となりました。

会県に載六 ろ自森県長老付さ月当で然県林

された後も弔問客は続き、通夜では七戸町長と青森れ、問い合わせが相次ぎました。六月十四日に荼毘十二日に東奥日報・デーリー東北の紙面に大きく掲

初は身内・近親者のみで葬儀を行う予定でしたが、

の交流も多い方でした。

・樹木の研究にも関わるなど、家族が知らないとこ史・七戸町史はじめ各市町村史の執筆にも携わり、

家族が知らないとこ

青森県上北郡七戸町寒水 70-17 電話 0176(62)2761

多くの方が「良い写真だ」と話されていました (上)ありし日の理事長 (下)通夜・葬儀の際の祭壇。

> を知りませんでした。百歳になってもなおしい」と頼むなど、その知的欲求は止むことには家族や職員に「〇〇について調べて欲健在。毎日書物を読み、新聞に目を通し、時晩年は足腰が弱って来たものの、頭脳は い」と語るなど、 には家族や職員に「〇〇について調べて健在。毎日書物を読み、新聞に目を通し、 「これから二冊は本を書かな まだまだやりたい

> > した。

の広さに、

家族

と青森山田学園理事長からそれぞれ弔辞を頂きま

告別式の際には県文化財保護協会

実に四十四基のお花が届くほど。

そ

職員一同驚くばかりでした。

人福祉協会会長、

を

でも家族との会話も出来ている状態でした。
一でも家族との会話も出来ている状態でした。
それが延期になった」と連絡がありました。それが月八日、七戸病院より「熱上昇のため退院と一安心していました。
しかし退院間近の
退院ですね」と言われ、職員・家族一同ほっ
ないまが、
ないまが、
ないののでは、
ないのでは、
ないののでは、
ないのでは、
ないののでは、
ないのでは、
ない 「日、公立七戸病院へ伝完。……」日、公立七戸病院へ伝完。……」時は危険な状態とも言われました。が続した事を気にしていました。絶飲食が続います。 げるステント留置術をが腫瘍のため閉塞してた。検査の結果、下行結 べても良い」と言わ か」「本を書かなければいけなあっても「蒋介石の演説につげるステント留置術を行いま 訴 え が聞かる 介石の演説については調べた留置術を行いました。病床に閉塞しており、閉塞部分を広外、下行結腸とS字結腸の境目 れ少しずつ て入院となり 日市立中央病院二十七日、腹痛 食事をする 何を食 き、様べ ź

尉を経て大尉となり 深く感謝申し上げ 7中国本土各地をよへ学卒業後、陸軍主記 `ます。 白に 生

http://midorikai-gr.or.jp

植えるなど林業にも携わっていましたむ一方、父・達三氏の跡を継ぎ梓や櫟の里大学教授、青森大学学長など教育畑 現地で終戦を迎え帰国した後、 ほどなく追放が解かれ、七戸中学校教 弘前大学助教授、 なく くされ 樹を を 歩 北 諭ま 田稔理事長は、 そして支えて頂きました。

その後も七戸高校、

ま

育森県人権擁護委員、

経営者会議会長など県・

の

主立ったものだけでも青森県文化財保護協会会

青森県観光審議会会長、

町内外の要職を歴任。

生前その役職から実に多くの方々と

前述した教育関

持ち、

り農業を行うことを余儀



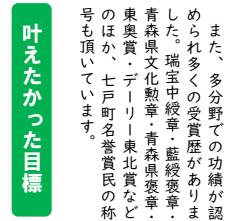


多方面から実に 44 基のお花が



『生涯現役

-東北賞(右上)東奥賞(右下)藍綬褒章 – IJ ·



を を を になれば家内も百歳、夫婦揃 になれば家内も百歳、夫婦揃 になれば家内も百歳、夫婦揃 になれば家内も百歳、夫婦揃 を語っていましたが、その夢 と語っていましたが、その夢 を語っていましたが、その夢 をでる歳超えを目指します」 をでのでは、 を がのがのできなかったことが、た を がのののできながあっ の栄光を得ても、

のほか、 号も頂いています。 七戸町名誉賞民の

ておごることなく研究畑を歩

叶えたかった目標

計中尉に任官され、 数が最も苦手だったとか。 軍隊の衣・ 0

去で九人兄弟の

(中国)派遣軍として支那大陸に進出せよ、と命が下ります。八戸

陸軍主計大尉に昇進したある日、

突如支

バッターが理事長・キャッチャー

が!)。青森大学学長職は、七期二十一年

と長期に渡りました。

社会福祉分野で広く活躍しているのはご

設。今もなお、同学部の卒業生が県内外の の充実のために、青森大学に社会学部を創

存知の通りです(美土里会にも卒業生

方を駆け回ります。

現在の七戸町

六年三月十

五

盛田理事長は大

四男として生まれ

長は県内各地を移 は教師であったた 十一年に青森女 住みました。大 幼少期の理事

ました。 である工藤祐司氏 理事長のお父様

人中いつもビリから二番目くらいだったそうです。 長は、成績があま 年生となった理事 り良くなく、五十 付属小学校の一 中でも算

私たちが知っている理事長からは

時には一・二番の成績となりました。 猛勉強を開始。四年生の頃には十二番まで一気に成績を上 る気持ちにはなれないものなんだ」という言葉に衝撃を受け 父様の「先生はな、勉強したくない生徒には本気になって教え とても想像できません。 入学。より高度な教育を受けながら勉学に励み続け、三年生 るなど、 た。一年時の成績も二百人中百番台と平凡なものでしたが、お でしたが、 その後、 努力を重ね七倍の倍率を突破し官立弘前高等学校へ ハ戸尋常小学校へ入学。県立ハ戸中学校へ入学予定 お父様の転勤により県立弘前中学校へ入学しまし

ります。大学時代は勉学に励む一方、東洋思想を通じ国際社会 宿に戻り学生生活を続けました。 は嫌いだがほどほどの美人であったので安心して」結婚。その 年の十月に結婚式を挙げ、 在の奥様と出会い、盛田家の婿養子に。理事長いわく「超美人 となり、寮で規律正しい生活を送りました。昭和十五年には て広く活躍する人材を育成するための禅塾『東光書院』の塾生 東京大学)経済学部を受験。見事合格を果たし、大学生とな 昭和十三年、理事長は悩みに悩んだ末に東京帝国大学(現在 一週間も経たないうちに東京の

過酷なものでした。

畑を耕す日々。

陸軍経理部見習士官要員として入 たが見事五番という高順位で合格、 募集に一千名以上の応募がありまし 二か月の兵営生活を経て陸軍主 陸軍経理学校に 戦時における

住

会計経理

に関す

昭和十六年陸軍経理学校丙種学生募集に出願。

何と

十名

七戸中学校、

大学生時代の理事長

長とともに車で通う毎日でした。

第一期生として入学し

た、息子である故・盛田益三前

北里大学に勤務すること三年、青森に開学した四年制大学の

昭和四十六年に、青森大学学長に就任されま

特に台湾からの留学生だ

森大学教授に

学長就任後は人材の育成に注力。

を送ることになります。下士官採用試験の監督や訓練施設の 店)の任に就き、軍人としての道を歩み始めました。 に携わる日々。戦時編成が下され、 そこからはまさに、戦時中という時代に翻弄された、激動の 陸軍経理学校卒業後は弘前の近衛歩兵第五十二連隊補充隊 給養と酒保(しゅほ…軍人に日用品や嗜好品を販売する ル。ようやく奥様を東京に呼び、 実施方法をすべて身につけなければいけない超過密 ハ戸に移駐。戦時の準 軍務に専念したそう 備のた 設 日

-が益三前園長

なっています。理事長は「これからは地方 授となり、東洋陶磁器研究の世界的権威と

った謝明良氏はその後台湾国立大学の

の時代だ」と、地域文化の興隆と地域福祉

駅から出発し下関から連絡船で釜山 (韓国)を経て、 武昌などを転戦。後方支援 後、敗戦。永豊という町で や兵舎の設営などに従事 うな壮絶な日々を送っ るなど、想像も出来ない けたり将兵の死も目に しました。間近で爆撃を受 漢口、 界三大聖人の一 の名「みどり」 建設を決意。

と考えた理事長は当時の浜中博町長に相談し特別養護老人ホーム まとまった金銭が入り「生まれ育った七戸町に何か恩返しをした

が所有する柏葉城跡北郭の土地がその対象となりまし

ます。文化庁による七戸史跡の買い上げが

昭和六十年代に入り、大きな転機が訪れ

人である儒教の祖・孔子の教え「真心から人を思いやる から、迷うことなく美土里会と名付けました。また、世 社会福祉法人名は、緑豊かな美しい土地、そしてお母様

『忠恕』を美土里会の理念と定め、普及を図りました。

特別養護老人ホーム美土里荘開設後は、高齢者福祉は



容所といっても想像していたイメージとは全く異なり、 虜のこと) 収容所での暮らしを余儀なくされました。しかし俘虜収 参列した事を皮切りに台湾との交流はどんどん深まって行き、 を持つこととなった理事長。その後、蒋介石第五任総統就任式典に 軍の温情・支援で無事帰国出来た事から蒋介石・台湾への感謝の念 て行きます。現地市民とも友好関係を築いていた折、復員の命が下 を切って持ち帰るなど、 満ち引きがあることに気づき、引き潮の時に中州まで行き柳の木 も出来るほど。炊事用の薪の確保に苦心していた時、揚子江に潮の 分たちで自炊をしたり、相撲や体操など自由に身体を動かすこと 満ちた空間でした。米は現物支給、諸経費として一人百円支給、自 に二十回以上も台湾を訪れています。 時を経て、 その後は揚子江の中流の嘉魚という町にある俘虜(ふりょ、 嘉魚から南京へ移動。上海、宝山を経て船で帰国。一年七ヶ月 とうとう帰国、七戸へ戻って来ました。この時蒋介石 機転を利かせながら何とか物資を確保し 涙を流して玉音放送を聴 開放感に 捕 実 足のわらじを履いているか判らないほど精力的に活動を続けました。 がその特徴から 解き七戸町史等を執筆。南部小絵馬の研究では絵馬に描かれている馬 畑に出てルバー 擁護委員を四十 たイチョウに関 国内外の文化・ もちろん、青森 事」を意味する したこともあるほど。更には地方史・文化研究などで高い評価を得て行

なくありません。自然科学、特に樹木の研究では、東京大学で行われ

学術的にも大変貴重なものや新学説となったものも

ブやカシスなど先進的な作物を育て加工するなど、何 歴史の研究、青森県史編纂はじめ多数の執筆活動、自ら 大学学長として次世代を担う若者の育成、自然・樹木・

研究の中には

昭和六十三年

れない質問に代わりに回答するなど博識を披露し、他の聴衆が殺到

するフォーラムに聴衆として参加、パネリストが答え

特に七戸町

などの「戸」の研究で注目を浴びたほか、古文書を読み

帰後は農業関連の仕事や開墾を続けながら の習得と実践に精を出し続けました。 長は方々を駆け回りながら独学で農業知識 七戸に戻ってからの第二の人生もまた、 青森短期大学の教授を歴任。さらに 七戸高校の教諭となり、 それ以外に道もなく、 公職追放中でもあり 当時大変珍し 公職復 かった 弘前 新 理 田 た

なことにも取り組み、

バーブの栽培なども行いました。

晩年になっても

盛田

時には青森山田 会委員、青森県

精力的に活動を続けていました。

学園理事長にも就任、後に青森山田学園名誉顧問へ。 観光審議会会長等、枚挙に暇はありません。九十五歳の 三年も勤め、青森県文化財専門委員長、ATV番組審議 広範囲に渡る社会活動も、理事長のライフワークの一つでした。人権

アラブ種であることを発見しました。

現在の美土里荘周辺を開墾



の九五年』(文化出版社刊)から紹介理事長の著書『生涯現役 波瀾万丈 一読下さい。 したものです。ぜひお手に取ってご 今回掲載した『激動の百年間』は、

生前 去を は の活躍を知るにつれ「もっと聞いておけばよかっ お知らせする号となってしまいました。しかし、 んの木だより号外第二号は、 残念ながら理事長

は昭和四十一年に十和田市に新たに出来た北里大学獣医学部の教

今後 た がけたいと思います。 護のことなら美土里荘」と言われるサービス運営 は理事長が唱えた法人理念「忠恕」の心を胸に、 と思うことが多く、悔やんでも悔やみきれません。 理事長、お疲れさまでした。